

「就労支援部会」平成30年度後期活動報告について

1 開催日時

第27回 平成30年10月25日（木） 「就労移行支援事業所バスツアー」

第28回 平成30年12月13日（木）

2 部会員

団体等名	氏名
特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨（部会長）
特定非営利活動法人 くるくる	鈴木 佳奈
刈谷市障害者支援センター	梅津 大樹
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	加藤 正昭
刈谷商工会議所	河内 利夫
刈谷公共職業安定所	櫻井 茂文
刈谷市立刈谷特別支援学校	前田 直美
愛知県立安城特別支援学校	都築 正徳
商工業振興課	川口 泰治

3 報告事項

（1）第27回就労支援部会「就労移行支援事業所バスツアー」（平成30年10月25日開催）

企業担当者に事業所の役割や利用者の訓練内容等を把握し、理解を深めていただくために、「就労移行支援事業所バスツアー」を開催した。

昨年度の経験を踏まえ、各事業所が説明方法等を工夫したことで、企業担当者のツアーに対する満足度は前年度に比べて上昇した。

ア ツアー内容

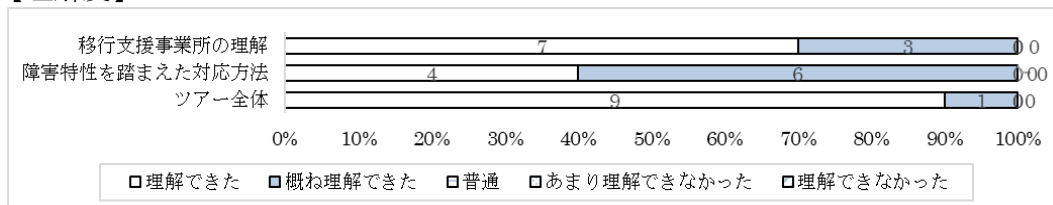
見学先	説明者
就労移行支援事業所 S&J パンドラ	所長 坂口 伊久磨 氏
「シンフォニー」アンダンティーノ	支援員 梅津 大樹 氏
就労支援センターくるくる	アシスタントディビジョンマネージャー 早川 香南 氏

イ 参加者数

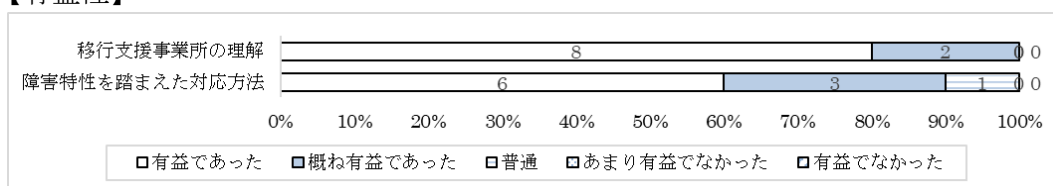
9社10名

ウ アンケート結果

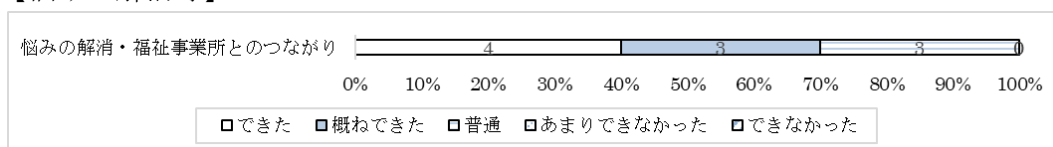
【理解度】



【有益性】



【悩みの解消等】



【自由記述】

- ・ 色々な障害を持つ方に合わせた移行支援事業所が必要であると感じた。
- ・ 一度に色々な見学が出来るのは有り難い。ぜひ続けてもらいたい。
- ・ 生き生きと働かれている方を拝見できて良かった。
- ・ 就労移行について聞いたことはあったが、実際目にして理解を深めることができた。
- ・ 障害の特性を踏まえた対応の仕方についてよく分からなかった。
- ・ 事業所を通じて就職できた方の現在の仕事ぶりを見学できればいいと思う。

(2) 第28回就労支援部会（平成30年12月13日開催）

ア 事業所バスツアーについて

参加企業からのアンケート結果に基づいて、当日の所感や反省点を確認し、支援機関から参加企業への今後のアプローチ方法について確認した。

- (ア) 1事業所ごとの見学時間を昨年度から10分増やし35分にしたことで、参加者と利用者が直接話をする時間や質疑応答の時間を十分に確保することができた。

(イ) 参加企業に対して部会員からフォローの連絡・訪問をし、相談体制を構築するとともに、今後の見学、体験実習及び就職に係る連携を図っていくこととする。

イ 次年度に向けた課題について

部会員に対し次年度の就労支援部会の活動に関するアンケートを実施し、セミナー及びバスツアーの必要性や、次年度に向けて具体的な内容について検討した。

(ア) 雇用セミナーについて

- a 企業自身がまだまだ障害者雇用について理解が進んでいない状況の中で、障害の特性や事業所の役割などを周知する場として有用である。また、企業と事業所が繋がりを持つことで、相談や見学、体験実習などを積極的に行うことができるため、障害者の雇用促進が図られる。
- b 企業担当者に障害者の雇用についてより理解度を深めていただくため、事業所への入所から日々の訓練、企業と連携しながら見学や実習などを実施して一般就労に至るまでの全体的な流れを事業所と企業がそれぞれの立場で説明するような企画を検討する。

(イ) 事業所バスツアーについて

- a 実際に利用者が訓練している様子を見ることができる機会は障害者雇用をイメージする上で必要である。さらに、利用者が一般就労した後、どのような環境でどんな仕事をしているのかを見ていただくことでよりイメージしやすくなるのではないか。また、セミナー同様、企業と事業所が繋がる場として有用である。
- b セミナーとも関連付けて、事業所から一般就労する流れが把握できるよう、事業所及び企業での訓練や仕事の様子を見学できるようなツアーを検討する。

ウ 就労支援連絡会について

平成31年1月29日（火）に今年度第2回目の就労支援連絡会を開催した。

9月に市民向けの事業所の説明会及び交流会を開催したが、今回は事業所によるイベントの振り返り及び意見交換を行うことで、事業所間での連携強化と継続的な支援体制の構築を図った。

4 平成30年度の目標に対する総括及び今後の検討課題

(1) 雇用セミナー及び事業所バスツアーについて

セミナー、バスツアーともに参加企業は僅かに減少したが、どちらも内容の充実を図ったことで、参加者アンケートによる「内容の理解度」や「障害者雇用に向けた有益性」は前年度に比べて上昇した。

参加企業に対して部会員からのフォローを行い、企業が抱える悩みやニーズに対するアドバイスを行うとともに、見学や体験実習の受け入れ等をしていただくことで、一般就労に繋がったケースもあった。(下記の表を参照)

来年度は就労定着にも着眼しながら、事業所の利用から一般企業への就労移行及び継続的な支援といった全体的な流れについて、事業所、企業それぞれの立場から説明できるようなセミナー及びバスツアーの開催を目指す。また、内容の充実を図っているものの、参加者が思うように伸びていないということが課題として残っており、関係機関の協力を得ながら、より効果的な広報活動を行っていく必要がある。

【企業－事業所間の連携について】

事業所等名	29年度			30年度		
	見学	実習	就職	見学	実習	就職
パンドラ	3	3 ⇒	うち2	-	2 ⇒	うち1
シンフォニー	-	1 ⇒	うち1	7	-	-
くるくる	-	-	-	-	-	-
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	-	-	-	-	1	-
安城特別支援学校	-	2	-	-	2 ⇒	うち1 (H31.4~)

※イベント後に企業へのフォローアップを行った平成29年度以降の実績

(2) 就労支援連絡会について

市内各就労支援事業所が集まり、それぞれの特徴や悩みを共有することで、事業所間が連携するきっかけを作ることができた。来年度も引き続き、連絡会を開催したいと考えている。